

結核

第七卷 第十號

昭和四年十月二十四日發行

綜說

職業病ト肺結核

(第七回日本結核病學會總會特別講演要旨)

工場監督官 櫻田儀七

緒言

纖維工業ト肺結核ト云ヘバ我國ノ工場ト肺結核ト云フコトデアル何ントナレバ我國ノ工業ハ纖維工業タル紡績織物製絲等ガ代表的デアリ又中心トナル場合ガ多イカラデアル、而モ従業員ノ全部ガ十六歳以上二十歳前ノ婦女子ノミナル故種社會問題ヲ惹起シ労働衛生上ノ立場ハ勿論我國民保健上カラモ屢々問題トナル所以デアル、然ルニ此等女工ノ肺結核ノ病理ニ至リテハ斯界ノ専門家ニ由リ簡明シテ居ナイノミナラズ職業病トシテ如何ナル位置ニアルヤ且ツ職業病ノ一般概念ガ尙ホ醫學界ニ普及セラレナイ感ガアル、殊ニ労働衛生ノ隆盛ヲ來シタルハコ、數年來ノコトニシテ海外ト雖モ國際労働會議ニ於テ各國ガ一般醫師ニ紹介セテバナラヌコトヲ決議シ又昨年「布哇」ニ開催ノ汎太平洋會議ニ於テモ此方面ニ對スル活動ニ冷淡デアルコトヲ力説シテ居ル從ツテ先ヅ現今職業病ニ對スル概念ヲ述ベタル後肺結核ノ業務トシテノ判定上當惑シテ居ルコトヲ述ベタイ迄デアル。

一、職業病ノ名稱、一般ニ職業病ト云ヘバ工業界ニ於テ其業務ニ依リテ來ル症病ヲ示スモノト思ツテ大過ハナイ、即チ

狹義ニ觀タ場合ハ工業病ノコトデアルガ廣ク農商業ノ方面ヘモ調査スル必要アレバ職業病ト稱ウレバ適當デアロウ。

二、職業病ノ定義、職業病ノ定義ニ就テハ既ニ各國ノ學者ニ依リ色々説明サレテ居ルガ何レモ實際上ノ經驗カラ見テ完全ニ表示サレタモノハナイ様デアル、然シ一言ニシテ云ハシムレバ其原因ガ直接作業上カラ惹起シタ疾病デアラチバナラス、往々工場内ニ於テ食物中毒或ハ「チフス」等ニ罹病シタル場合ヲ以テ職業病ニ編入スベキヤ否ヤ屢々質問ヲ發セラシムルガ此等ハ無論職業病タルコトヲ許サバルコトハ當然デアアル、即チ可及的狹義ニ解釋スレバ間違ハナイ又其レガ學界一般ノ趨勢デアアル、之レニ反シ精神のニ觀テ社會感念上カラ業務如何ヲ問ハズ工場内ニ於ケル不衛生ナル環境ヲ與ヘタル結果疾病ヲ發見セシメタルモノナレバ之レヲ賠償セシムベキ義務アリト主張スルモノガアル、例之組織的ニ出來テ居ル森永製菓工場女工ノ齶蝕ノ多發デアアルガ、之レハ業務上ノ關係ヨリモ嗜好的ニ食スル場合ガ多イノデアアルガ、在來ノ駄菓子工殊ニ飴細工ノ如キハ業務上飴ノ粘度溫度其他ノ關係ヲ知ランガ爲ニ能々門齒ニ接觸セシムルトカ或ハ必要アツテ食スル場合ヲ認メチバナラスカラ職業病トシテ齶蝕ヲ取扱フ理由ガ立ツ譯デアアル、故ニ鑛内作業ノ如キハ其レ自體既ニ大ナル危險場所ナル故業務上ノ如何ニ拘ハラズ賠償セシムベキモノデアアルト云フニアル、九州炭鑛内ニ發生スル十二指腸蟲、ワイル氏病等モ社會通念ノ上カラ云ヘバ職業病トスベキデアアルガ嚴極ナル意味カラ準職業病トシテ中間說ヲ主張スル人モアル程デアアル、近時炭鑛夫ニ屢々發生スル眼球震盪症ノ如キハ内外ノ學者ニ依リ酸化炭素ノ慢性中毒說ヲ唱ヘラル、ニ當リ有力ナル職業病トシテ取扱フベキ氣運ニ向ヒツ、アル狀況デアアル。斯クノ如ク廣義ニ觀ラル、ハ將來社會ノ進展ニ從ヒ實施スルモノト思ハレル、且ツ又現今ト雖モカ、ル思潮ノ表ハレ居ルコトハ疑ヒナキモ各文明諸國ノ國情ニ由リ之レガ實施ニ至リテハ尙ホ區々ニシテ一定セザル様デアアル。

職業病發生ノ時期

直接作業ニ由リテ發生スル職業病ハ原則トシテ初メテ職工生活ヲシタ初期時代ニ惹起スルノガ常デアアル、即チ不熟練ナル修業時代ニ多發スルモノデアアル、之レハ恐ラク第一ニ環境ノ急變殊ニ纖維工業ノ肺結核ガ入場後一ケ年以内ニ多發スル事實ヲ觀テモ肯ゼラレル、之レ比較的清キ境地ニ生活スル女子ガ年々奥地カラ奥地ヘト募集セラレテ都會ニ出デ甚シ

ク衛生状態ヲ異ニスル纖維工業ニ就業スルカラデアルト思フ、又手工的硝子工ハ從來肺氣腫ヲ多發スルモノデアルト主張サレテ居ツタガ特ニ永年勤績ノ熟練工ヲ診査スルト肺氣腫ヲ發見セザルノミナラズ意外ニ壯健ナルニ驚クノデアアル。此ノ關係ハ勞働ノ烈シキ工場デアレバアル程著シク明カニ「セレクシヨ」ナル、モノト信ジテ居ル、即チ硝子工ガ業務上ノ結果兩頬部ノ膨大シタルコトガ代價的トナリ、此ノ頬部内空氣ヲ以テ吹込ミヲナシテ殆ンド胸部ヲ使用セザルコトガ知ラレルノデアアル、從ツテ力ノ經濟的利用ガ自然ノ内ニ感得スルニ至ルモノデアルト思フ、尙ホ亦製絲女工ノ手脂濕疹ノ如キモ初期女工ト雖モ煮繭分業カラ三分業ト單純化サル、ニ伴ヒ女工ノ發疹ヲ減少セシムルコトガ出來ルノヲ觀テモ未熟練時代ニ職業病ノ多發スルハ作業ノ未熟練、不注意、環境ノ急變、力ノ不調和ノ結果デアルト思フ。偕テ職業病ニ如何ナル疾病ガ見ラル、カト云フニ所有器官ニ發生シ得ルカ通常多數ニ發見スルモノハ第一ニ皮膚病、第二ニ金屬性中毒、第三ニ呼吸器病デアアル、而シテ各種工業ノ作業ノ結果皮膚炎或ハ濕疹ヲ起ス所ノ所謂職業性皮膚炎乃至工業性濕疹ヲ多發スルガ就中化學工場ノ凡テニ觀ラルノガ常デアアル、殊ニ瓦斯精製工業ニ於テ「タール」原料ヨリ製出スル揮發油、「ナフタリン」、「ナフトール」、「クレゾール」、「石炭酸」、「アントラセン」等凡テノ「ベンゾール」系ハ皮膚發疹ヲ惹起スルノミナラズ、從來ハケ釜シク唱ヘラレテ居ル職業癌ハ此種工業ニ多大ノ關係ヲ有スルモノデアアル、其他既ニ周知ノ「クロールアクチ」機械工ノ油性皮膚炎種々ノ色素カラ來ルモノ、サテハ園丁農夫ニ屢々觀ル所ノ植物性毒素ニ因スル皮膚病例之櫻草、「トマト」、「アスパラガス」等ノモノデサヘ紅斑性皮膚炎ヲ起スモノガアツテ化學的物質ガ原因ヲナスモノハ枚舉ニ遑ナキ位デアアル、次ニ機械的外力ニ由リテ來ル肝腫ハ又職業性皮膚病デアツテ多數ノ發表ガアルガ就中先年最も甚シク特徴ヲ有スルモノニ「エボナイト」、「ソッケット」工ノ手掌ニ於ケル高度ノ角化症ヲ發表シタ、尙ホ物理的刺戟ヲ原因トスル線、「ラジウム」工ニ治愈困難ナル皮膚潰瘍ヲ發生シ細菌ヲ原因トスルモノニ工業性炭疽病、馬鼻疽、牛ノ慈口瘡、「ビルツ」、「ポトリオミーセス」、「アクチノミコーゼ」、疥癬蟲、牛結核、馬ノ傳染性顆粒性口内炎其他尙ホ色色ノ疾病ニ由リ凡テ皮膚面ヲ侵ス可能性ガアツテ此等ハ主トシテ農業家、畜産家ニ罹病スル所ノ細菌性職業性皮膚病デアアル、斯クノ如ク職業カラ來ル皮膚病ハ各種ノ原因カラ發生シ化學的原因ト其皮膚炎ハ「アレルギー」疾患ト關係深ク外

力カラ來ル肝腫ハ既ニ刑事犯罪學、法醫學上必要デアリ、細菌性ノモノニハ家畜ノ傳染性疾病ト密接ナル關係ガアリテ其代表的ノモノハ近年委細發表セル炭疽病ノ如キデアル、而シテ此等諸原因ニ由リテ來ル皮膚病ノ外表在性ニアル口腔、鼻腔ノ粘膜或ハ眼球膜等ニ色々職業ニ因スル疾病ヲ發生シ或ハ又粘膜面皮膚面上ノ損傷發育變異等凡テ表在性ニ視診シ得ル所ノ職業性障得ヲ總稱シテ (Occupational stigmata. (Berufsstigmata) 或ハ Curenens Occupational stigmata ト唱ヘテ居ル。

第二ノ金屬性中毒ハ主トシテ工業性重金屬中毒ノ事デアツテ就中鉛中毒ガ代表的ノモノデアアル、即チ白、赤黃鉛製造業、蓄電池、鉛工、活字鑄造、鉛版、鉛管製造業等ハ主ナル工業ニシテ鉛ノ工業界ニ於ケル使用ハ意外ニ廣範ニ渡ツテ居ル爲メ各國ハ工業性鉛中毒ノ研究業績ノ多數ナルニ反シ我國ノ研究ハ極ク最近ノコトデアアル、重金屬中毒ノ内デ鉛ノ外褐石ニ由リテ來ル褐石磨碎夫病、亞鉛瓦斯ヨリ來ル熱病業デアアル、類金屬ノ内デハ亞砒酸中毒ガ工業界ニ多數見ラレ輕金屬トシテ燐中毒ハ又有名ナモノデアアル、本病ハ我國ニ於テ大正七年頃關西地方ニ於ケル黃燐「マツチ」製造工ニ燐頸骨疽ヲ發見シテ居ル、現在ハベルン會議ニ基キ大正十年黃燐「マツチ」ノ製造ヲ禁止シタノデ目下福島縣下デ燐ソノモノノ製造ニ從事シテ居ルノミデアアル、最後ニ呼吸器病デアルガ本病ハ慢性ニ發病スル性質ト内的疾病ニシテ且ツ職業ニ依リテ發生シタルモノナルヤ之レヲ證明スルニ極メテ困難ナル狀態デアアル、從ツテ的確ナル證明法ガナク殊ニ纖維工業其他ノ工業ニ於テモ肺結核ヲ職業ニ因スルモノナリト判定ヲ與フルニハ尙ホ前途遼遠ノコトデアアル、然シナガラ呼吸器病ノ内デ從來屢々問題視セラル、モノハ鑛肺、肺氣腫、喘息樣疾患デアロウ、鑛肺ノ内デ最近一般ニ注視セラレツ、アルモノハ硅肺デアツテ各國カラ有益ナル研究發表ガ多數アリ、既ニ職業病トシテ立派ニ認定シテ之レヲ賠償シツ、アル現狀ニ至ツタ、諸外國中デモ南阿トランスバールノ金鑛山ノ鑛夫ニ對シテハ肺ニ關スル非常ニ細密ナ検査法ニ由リ規定ヲ設ケ賠償シテ居ル有様デアアル。次デ肺氣腫ガ勞働ニ關係多イコトハ昔カラ知ラレテ居ルガ如何ナル程度ニアルモカ又職業病トシテ證明スルニ容易デハナイ、今後ノ研究ニ俟ツ必要ガアル、硝子工ニ肺氣腫ガ多キコトヲ發表シテ居ルガ案外少ナキコトハ前述ノ通りデアリ又國際聯盟ニ於テモ其後硝子工ニ肺氣腫ノ稀ナルコトヲ發表シテ居ル、喘息樣發

作ハ硅肺ニモ見ラレルガ主トシテ化學的物質ニ由リテ起ル場合ガ多イ、最近我國ニ於テモ三共製藥工場ニ於テ「モルヒチ」、「ヘロイン」等ヲ粉末ニスル職工ニ喘息症狀ヲ起スコトヲ發表シテ居ル、又東大内科ニ於テ米杉ニ因スル喘息發作ヲ認メ且ツ實驗的ニ人ニ就テ興味アル成績ヲ發表サレタ、所ガ肺結核ハ工業ノ隆盛ト共ニ其工場施設如何ニヨリ多大ノ關係ノ有スルコトハ言フ迄モナイガ公衆衛生上ヨリ見テモ我國ニ於テ重視セラル、疾病デアルカラ工場生活外ノ環境ヲモ考察スル必要ガアル、然シナガラ我國ノ中心工場デアル纖維工業ハ發育盛リノ青年女工ヲ以テ組織セラレ其殆ンド全部ガ工場就業外ハ寄宿生活ヲナス大集團デアリ、且ツ此等多數ノモノガ同一環境ノモトニアツテ特殊ノ作業ニ従事スルモノナレバ心理的或ハ肉體のニ影響ヲ及ボシ從ツテ工業ノ衛生施設方法ニ依リ肺結核ノ發生ヲ左右スルハ當然ノコトデアル、從來纖維工業即チ紡績、織物、製絲ヲ主トシテ肺結核ニ關係スル統計的ノ觀察ハ國ノ内外ヲ問ハズ詳シク發表サレテ居ルガ特殊ノ動物實驗竝ニ纖維女工ノ病理上ノコトハ殆ンド不明デアツテ今後開拓スベキ方面デアルノミナラズ實際的ニ研究の態度ヲ以テ纖維女工ノ臨牀的觀察上ノ成績スラ不充分デアル、最モ本科學ハ最近ノ進歩デアリ、且ツ工業界ト云フ限ラレタル特殊關係ニアレバ將來ト雖モ當事者ノ旺盛ナル研究心ト決心ト合セテ事業主ノ理解ト向上心ニ俟タテバナラス、現今纖維工業就中紡績工場ノ女工間ニ結核病ガ多發スルト言フ事ハ天下周知ノ事實デ今更事新ニ述ベル必要ハナイガ從來ノ統計上カラ言フナラバ既ニルブナー氏ハ紡績ヲ第二ノ筆頭ニ置キ結核死亡率千中七乃至三即チ凡七%ヲ發表シテ居ル、大正九年九大ノ大平博士ガ大阪ノ東洋紡績ニ在職當時ノ結核死亡率ハ八・六%デアッタ。尙ホ又大正五年前工場法施行以前ニ石原修氏ハ「女工ト結核」ト題シ、我國紡績女工ノ肺結核罹患率ヲ公ニサレタガ、其成績カラ觀レバ尙ホ之レ以上ノ死亡率デアルコトハ疑フ餘地ガナイ、又實際結核病ハ纖維工業ノミナラズ、各種ノ工業ニ於テハ初期結核ヲ思フナラバ誠ニ憂フベキ結果デアロウ、然シ纖維工業ガ他種ノ工業ニ比シテ死亡率ノ高位ニアルハ每常變リナキコトデア、要スルニ職業ト肺結核ニ關スル統計的觀察ハ纖維工業其他數限リナク公表サレテ居ル、且ツ纖維工業自體ヲ觀テモ從來結核ヲ多發セシメシハ想像ニ難クナク殊ニ織物ノ内デモ綿織物工場ノ如キハ最モ關係深キ工場デアアルガ、之レヲ嚴格ナル意味ニ於テ個々ノ結核職工ヲ視テ業務ニ直接作用ノ有スル職業病トシテ取扱フニハ尙ホ色々困難ナル状態ニアル、

又本病ハ慢性傳染病ナルガ爲メニ纖維工業ニ於ケル溫度、疲勞、塵芥、採光、換氣其他ノ條件如何ニ由リ、職工身體ノ抵抗力ヲ減弱セシムル結果デアツテ唯直接關係アリト思ハル、モノハ織物工場ノ杼通シ即チ shuttle knitting ニヨリ女工ノ口カタ口ニ接觸サレテ傳染サル、恐レガアル、勿論コレトテモ實際ニ證明スル餘地ガナイノデアルカラ今後少數ノ個々職工ニ就キ或ハ更ニ動物實驗ニ由リ病理學上ノ研究ヲ進メ其所ニ「ヒント」ヲ得ル必要ガアルト思フ、殊ニ最近隆盛ヲ極メツ、アル線ノ應用ガ將來何等カノ根據ヲ與フル時代ノ來ルベキヲ信ズル次第デアル、既ニ硅肺ノ如キ肺結核ヨリ區別セラレテ之レヲ純然タル職業病トシテ法定上賠償セラレツ、アル域ニ達シテ居ル現状デアル、現在ニ於テハ肺結核ヲ我國ノ國民病ト見做シ、特殊ノ取扱ヒヲナスガ或ハ豫防上カラ見テモ早期ノ發見ニ勤メ有力ナル事業主ニアツテハ自發的ニ適當ナル保養所或ハ療養所ヲ設クレバ結構デアルト思フ。煙草專賣局デハ肺結核ヲ準職業病的ニ視テ取扱ハレテ居ル様デアアル、更ニ工場結核ノ多發ハ一面入場時ノ健康診斷ノ不親切竝ニ平素職工ノ健康ニ對スル不注意ニ起因スルコトガ多イカラ此等ノ嚴格ナル診査ト共ニ就業職工ニ對シ工場醫ト事業主ノ勞働衛生學的ノ理解竝ニ職工自身ニ於テモ自衛心ノ向上ヲ計ラシムルコトガ重要ナル條件デアアル。